

事例 : No. 6

高性能林業機械を活用した生産性の向上

1. 林業事業体等名 株式会社 ^{せいしょう}清勝 (岡山県西粟倉村)

2. 林業事業体の概要

- ①年間素材生産量 4,036^m (うち 間伐の占める割合 100%)
- ②生産する主な樹種 スギ、ヒノキ
- ③素材生産に関わる作業員数 4名 (1セット4名×1セット)

3. 取組の特長

- ・株式会社清勝のある西粟倉村は、平成20年から「百年の森林構想」を掲げ、村ぐるみで森林づくりを行っている。
- ・同社も平成29年度から「百年の森構想」に参画し、村有林の森林整備を積極的に行っており、西粟倉村としての林業の担い手として重要な役割を担っている。
- ・設立当初から高性能林業機械の導入を行い、効率的な素材生産を行ってきた。
- ・今回、新たにフェラーバンチャーザウルスロボを導入することで、作業道開設の効率化が図られたとともに、集材から造材までのボトルネックが解消され、生産量が改善された。

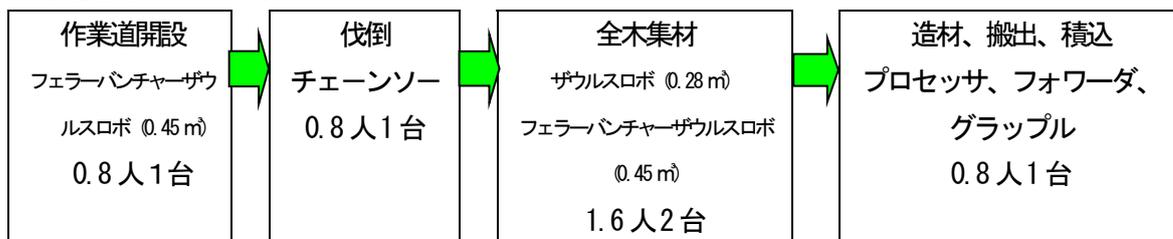
4. 具体的な内容

- ①施業方法：高性能林業機械を活用した生産性の向上
- ②使用機械：ザウルスロボ1台(0.28^m)、フェラーバンチャーザウルスロボ1台(0.45^m)、プロセッサ1台、フォワーダ1台、グラップル1台
- ③作業システム：

1) 旧作業システム (3人/セット)



2) 現行作業システム (4人/セット)



④森林作業道の作設方法

作業道開設は直径40cmまで対応できるフェラーバンチャーザウルスロボの導入により1人での作業も可能になった。

⑤労働生産性及び素材生産コスト：

利用間伐	旧作業システム		新作業システム	
	労働生産性 (m ³ /人・日)	素材生産コスト (円/m ³)	労働生産性 (m ³ /人・日)	素材生産コスト (円/m ³)
	3.32	7,200	4.80	6,100

5. 今後の取組等

- ・新たに大型の高性能林業機械が1台導入されたことで、造材作業のボトルネックが解消され、生産性が向上した。また、今回の大型機械導入により作業道開設および素材生産の効率が上がったことから今後も大型機械導入を検討している。
- ・西粟倉村の森林は、人工林資源の充実に伴い今後も搬出を伴う利用間伐の増加が見込まれる。このことから、新作業システムの普及・定着を図るとともに、村独自の長期施業管理協定に基づく森林施業を計画的に実施する。
- ・機械については、毎日のメンテナンスを心がけ、機械の故障によりボトルネックが生じないように細心の注意を払っている。
- ・一方、各種研修制度を活用し、新規に雇用した若手従事者の技術向上に努めるとともに、機械のメンテナンスについての指導を行う。

【フェラーバンチャーザウルスロボによる立木伐採と作業道開設】



【問い合わせ先】

所属：岡山県 美作県民局農林水産事業部 勝英地域森林課

役職・氏名：総括副参事 上野和俊

連絡先：0868-73-4058